



# フィンランド発の屋内物流機器 提案型ソリューションで 市場を牽引

三菱重工グループの欧州物流機器事業を支えるRocla社



自動化が進む欧州の物流倉庫では、人的負荷が少なく、それぞれの業態に合わせた総合的なソリューションが求められている。

長らく世界を揺るがせてきた欧州の債務危機は現在、ようやく底入れの気配を見せている。今後、欧州をはじめとする先進国では、景気の動向に敏感な物流機器市場を屋内物流機器\*がリードすると予想されている。北欧の国・フィンランドで、その屋内物流機器を手がける企業のひとつが、積極的な提案型ソリューションの提供で欧州の物流を支えるRocla(ロックラー)社である。

※小型フォークリフトなど屋内で使用される物流機器。

## 屋内物流機器への移行が進む 欧州フォークリフト市場

1942年にフィンランド・ヤルヴェンパーで創業したRocla社は、欧州で上位クラスのシェアを有する屋内物流機器メーカーだ。三菱重工とは1987年以降の協業関係にあり、屋内物流機器の受託製造を請け負うなど、良好な関係を続けてきた。

近年、物流システムの高度化が進む欧州の先進国では、エンジン駆動の大型積み荷向けフォークリフトから、小回りの利く屋内物流機器への移行が顕著になっている。エンジン駆動のフォークリフトを得意とす

る三菱重工と、バッテリー式の屋内物流機器に強いRocla社とのパートナーシップは、商圏が異なるという意味でも補完効果が大きい。2008年にはその関係をより堅固にすべく、当時、三菱重工の子会社であったMCFE(Mitsubishi Caterpillar Forklift Europe)がTOBを実施し同社を買収した。

## 顧客満足度を優先する 製品開発と高いデザイン性

Rocla社の製品は、顧客との共同創造を目指した共創(Co-Creation)を通じて生み出されている。同社が重要視するのは、製

品の使用工程をよく理解し、それを新たな製品開発に反映させること。顧客の意見を現場レベルで取り入れるのはもちろん、実際の物流作業をプロの視点で見つめ直す作業が、他に真似のできないイノベーションに重要な役割を果たしている。

またRocla社の屋内物流機器が欧州市場で選ばれる理由のひとつに、世界的に権威のある「Red dot」デザイン賞を、フォークリフト業界で唯一3度も受賞した高いデザイン性がある。欧州では概して倉庫の天井が10m以上と高く、現場における人的負荷が極力軽減されるよう人間工学的な視点からのデザインが強く求められてきた。そんな欧州で磨かれたRocla社のデザイン哲学は、単なる美の追求に留まらず、ユーザビリティを徹底的に追い求めることで、結果として顧客満足度の高い製品を生み出すというのだ。

さらに、デザインの開始当初から設計、製造、マーケティングに至るまでさまざまな部門と協力してデザインする「コンカレン

ト・エンジニアリング(Concurrent Engineering)」を実践することで、開発期間の大幅な短縮も実現している。

現在、ドイツ、フランスを中心とした欧州のフォークリフト市場では製品のコモディティ(汎用品)化が進んでいる。また多くの物流企業が経費削減を重要視し、その手段として物流拠点の自動化が目される中、機器をリースに頼る傾向が強まっている。屋内物流機器メーカーとして、こうした市場変化に対応するには、価格競争力の強化に加え、製品開発のスピードアップと柔軟な対応、顧客にとって付加価値となる部品・サービス・レンタルなどへの事業拡大も選択肢となる。そうした中、Rocla社が力を注ぐのが、独自の「提案型ソリューション」の拡大だ。

## フルラインアップの 総合ソリューションを提供

Rocla社の提案型ソリューションは、顧客の業務と営業の状態を的確に把握するこ

とで成り立っている。屋内物流機器をフルラインアップでそろえる同社は、顧客のニーズに合わせた製品の組み合わせを総合的に提供することが可能。そこにはコンサルティングや車両の維持・管理、遠隔モニタリングのほか、メンテナンスなどを含むバックアップ機能も含まれる。Rocla社は顧客の財務状況に合わせて、これらのサービスを含めたパッケージを提供することを目標としており、事実そうした総合的なソリューションの需要は増えている。

つい先日、フィンランドの郵便事業者Itella(イテラ)と結んだ、フォークリフトの整備全般からスペアパーツの提供までを含んだ大口受注は、その好例といえよう。

欧州のフォークリフト市場でさらなる飛躍を目指すRocla社にとって、パートナー企業との協力体制は今後も欠かせない。三菱重工や同グループ会社間では技術交流が盛んに行われており、双方の技術や製品を融合した新製品の開発にも共同で取り組んでいる。さらに現在は、新しい電気式フォークリフトなどの開発も市場投入を目前に控えている。

Rocla社はまた、Kone社、Metso社などの国内有力企業とも提携しており、新技術のイノベーションをサポートする公的ファンドTekes(テケス/フィンランド技術庁)の支援を含め、国内外に多様なソリューションを生み出す効果的なネットワークを構築している。屋内物流機器市場を牽引すべく、Rocla社が推進する提案型ソリューションに期待は高まるばかりだ。



人間工学に基づいて設計された、ゲーム機を思わせるハンドル。高い操作性を実現した低層型選別作業用機器「PS20」は「Red dot」デザイン賞を受賞。



Pekka Soini  
Director General  
Tekes (Finnish Funding Agency for  
Technology and Innovation)

## フィンランドの産業をリードする 卓越した技術開発力に期待

私たちTekesは、フィンランド国内の企業、大学、研究組織、政府機関などの研究開発や技術革新のために、資金とネットワーク、そして専門知識を提供する公的機関です。雇用経済省より割り当てられた年間約5億5,000万ユーロの資金をもとに、特に先進的な研究開発プロジェクトを積極的にサポートしており、国内で登録された外資系企業についても同様の基準・状況に基づき出資しています。

年平均約1,200社の技術研究プロジェクトに融資し、2012年には約1,620件ものプロジェクトに資金提供を決定しました。中でもRocla社の研究開発プロジェクトに対しては、過去30年近くにわたって継続的に資金提供を行っており、良好な関係を保ち続けています。

私たちが出資してきたRocla社のプロジェクトは、屋内物流機器の自動化や誘導システム、人間工学に基づいたデザインや、メカニクス、エネルギー効率、製品開発方法、さらには包括的なシステムの構築など、物流機器とその周辺サービスでの重要な要素ばかりです。私たちは出資プロジェクトの進捗状況を継続的にモニターすることで高い投資収益率を保っています。その中でRocla社は多くの革新的なプロジェクトに成功を収め、新技術・新製品の開発や将来的な事業活動の発展につなげています。

私たちはRocla社がフィンランドの革新的分野において、今後も積極的かつ影響力のある企業であり続けてくれることに期待しています。また、その強力なビジネスパートナーであるMCFEが、Rocla社に対して製品開発と事業活動の面でより多くの責任を与えたことは、その能力と将来性に大きな信頼を寄せている証と受け止めています。これからも私たちは、Rocla社が手がける将来性の高い研究開発プロジェクトのサポートに関わり続け、ひいてはフィンランド産業全体の競争力を強化していきたいと考えています。